

事業の基礎情報

実施主体	土庄町企画財政課
事業実施地域	香川県土庄町 四海地区
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ こども・子育て ・ 教育・スポーツ・文化
共創パートナー	小豆島交通株式会社、小豆島オーリーブバス株式会社、土庄町企画財政課、土庄町教育総務課、土庄町生涯学習課、土庄放課後児童クラブ、放課後子ども教室、四海地区老人会
運行形態	乗合タクシー
運行主体	小豆島交通株式会社、小豆島オーリーブバス株式会社

取組の概要

(現状の地域課題と事業目的)

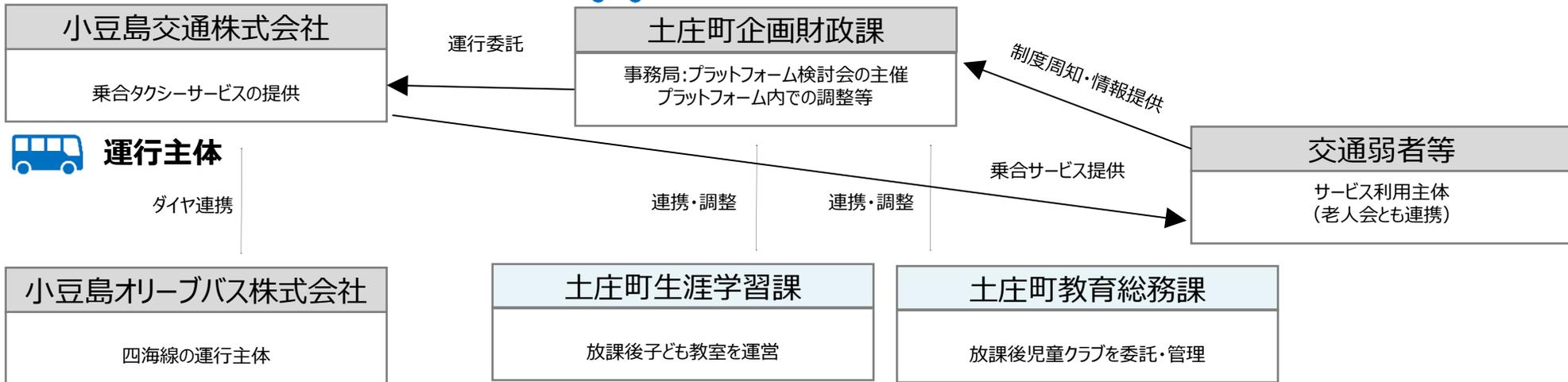
- 小豆島においては、人口減少や高齢化が深刻な状況であり、地域公共交通の利用者の減少に加え、住民ニーズに応じた交通モードの検討及び確保が喫緊の課題となっている。
- 特に、土庄町内を走る小豆島オーリーブバス四海線（右図赤枠のとおり）については、高齢化の深刻化等により、自宅からバス停までの移動が困難な利用者が増加傾向にあることなどから、近年、路線バスの利用者数が激減している。当該事業の実施により、ニーズに応じた交通モードを緊急に検討するとともに、地域住民の移動手段の確保に繋げていくことを目的とする。

(事業の概要)

- 小豆島オーリーブバス四海線の運行エリアにおいて、乗合タクシー事業を実証的に行い（※）、当該エリア内の住民のほか、交通弱者（高齢者・障害者・学生・こども等）の潜在的な移動ニーズを調査・把握する。
- （※）今年度から減便となっている四海線の隙間の時間帯に、新たに無料の乗合タクシーを運行。
- 当該事業では、既存の停留所から自宅までの運行が可能となるため、様々な事情で外出を控えている住民等の需要に対し、きめ細かな対応が可能となる。
- 運行エリア内の放課後子ども教室・学童保育等を運営する町内の他部署・事業者と屋外教育活動等の移動で連携し、乗降時間などを合わせ、活動場所でも乗降可能とする。また学校の長期休業期間において、教室への送迎に利用できることを保護者等に周知し、保護者の送迎の負担軽減に繋げる。
- 子どもの屋外での活動や行事の際に利用することで、普段あまり利用しない公共交通に触れる機会の創出や、障害を持った子どもの移動環境の改善を図る。



事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

自治会を中心に周知を行い、特に四海地区の小学生及びその保護者については、放課後子ども教室及び放課後児童クラブの利用の際の送迎等の手段、また屋外活動における障害を持った子どもの移動手段として利用するなど、教員等の負担軽減、また子どもの安全・安心な移動を確保し、教育活動の充実に繋げる。

また、老人会については、会員が買い物や病院へ行く際の移動手段として情報提供を行う。さらに、見守り対象世帯や障害者も利用できるよう民生委員等とも連携を図りながら、利用者の増加に努める。

(実証事業により見込まれる効果)

四海地区の中で、現在家に引きこもっている人や、障害のある人、また、小さい子どもが多く移動が難しい方などの気軽な交通手段となり、人が動くことで地域が明るく元気になり、そのことで持続可能なコミュニティの形成につながる。

※現在の四海線の利用者は、1日当たり約14人程度であるが、乗合タクシーが加わることで1日当たり約38人まで利用者が増える見込み。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

四海地区自治会を中心に乗合タクシーのチラシを配布（町広報折込）。民生委員とも協力し、一人世帯や高齢者世帯など、引きこもり気味の方がいる世帯には、直接訪問して周知をする。

運行に関しては、小豆島交通に、1日3便、週3回（土日祝日を除く。）の運行を委託し、7月ないし8月から6か月間行う。乗合タクシーは、基本1台（定員4人）で運用し、5人以上の予約が入った場合は、追加で1台に限り、臨時運行を行う。対象者は、四海地区住民すべてを対象とし、料金は無料、完全登録制、完全予約制とする。

運行時には、アンケートを行い、利用目的や今までの移動手段、移動先への頻度などを細かく調査する。また、利用の際の利便性なども合わせて調査し、今後の運行の参考とする。

なお、一定の効果が得られれば、路線バスの便数の少ない他の地域へも拡大し、実証運行も踏まえながら本格運行につなげていきたい。

業務内容	日程	令和6年 4月	令和6年 5月	令和6年 6月	令和6年 7月	令和6年 8月	令和6年 9月	令和6年 10月	令和6年 11月	令和6年 12月	令和7年 1月	令和7年 2月	令和7年 3月
		10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30	10:20:30
(1) プラットホーム検討会			●		●		●		●		●	●	
(2) チラシ、アンケートの作成													
(3) 住民周知													
(4) 実証運行													
(5) 分析、評価													
(5) 実績報告												●	

(補助事業実施後の予定)

補助事業実施後は、適正な料金を設定し、様々な補助制度も活用しつつ、財源の確保を行いながら、本格運行を検討していく。将来的には、四海線の便数を少しずつ減便し、乗合タクシーの割合を増やししながら、最終的には地域限定の乗合タクシーとして運行を行う。